

日蓮大聖人御書全集

しじょうきんごどのごへんじ

四糸金吾殿御返事

ぼんのうそくぼだい こと

(煩惱即菩提の事)

新版
1520
〜
1523

しじょうきんごどのごへんじ ほんのうそくぼだい こと
四糸金吾殿御返事 (煩惱即菩提の事)

ぶんえい ねん がつ にち さい しじょうきんご
文永9年(72) 5月2日 51歳 四糸金吾

にちれん しよなん おん 訪 いま じころぎし
日蓮が諸難について御とぶらい、今にはじめざる 志、

そろう
ありがたく候。

ほけきょう ぎょうじや だいなん 遭 そろう 悔
法華経の行者としてかかる大難にあい候は、くやしく

思 そうら しよう 受 し そろう
おもい候わず。いかほど生をうけ死にあい候とも、これ

かほう しようじ そうら さんあくししゆ そうら
ほどの果報の生死は候わじ。また三悪四趣にこそ候いつら

いま しようじせつだん ぶつか 得 み
め。今は生死切断し、仏果をうべき身となれば、よろこばし

そろう
く候。

てんだい できぎょうとう しゃくもん り いちねんさんぜん ほうもん ひろ たも

天台・伝教等は、迹門の理の一念三千の法門を弘め給う

おんしつ なん 遭 たま にほん できぎょう

すら、なお怨嫉の難にあい給いぬ。日本にしては、伝教よ

ぎしん えんちよう じかくとう そうでん ひろ たも だいじゅうはちだい ざす

り義真・円澄・慈覚等、相伝して弘め給う。第十八代の座主、

じえだいし みでし 数 多 なか だんな えしん

慈慧大師なり。御弟子あまたあり。その中に檀那・恵心・

そうが ぜんゆとう もう しにん ほうもん ふた わ

僧賀・禅瑜等と申して四人まします。法門また二つに分か

だんなそうじよう きよう つた えしんそうず かん

れたり。檀那僧正は教を伝う。恵心僧都は観をまなぶ。

きよう かん にちがつ きよう 浅 かん 深

されば、教と観とは日月のごとし。教はあさく、観はふか

だんな ほうもん 広 浅 えしん ほうもん

し。されば、檀那の法門はひろくしてあさし。恵心の法門は

狭 深

せばくしてふかし。

いま にちれん ぐつう ほうもん

狭

甚

今、日蓮が弘通する法門は、せばきようなれどもはなはだ

深 ゆえ か てんだい だんぎようとう ひろ ほう

ふかし。その故は、彼の天台・伝教等の弘むるところの法よ

いちじゆうた い ゆえ ほんもんじゆりようほん さんだいじ

りは一重立ち入りたる故なり。本門寿量品の三大事とは

なんみやうほうれんげきよう しちじ しゆぎよう

これなり。南無妙法蓮華経の七字ばかりを修行すれば、

狭 さんぜ しょぶつ したん じつぼうさつた

せばきがごとし。されども、三世の諸仏の師範、十方薩埵の

導師、一切衆生皆成仏道の指南にてましますなれば、ふか どうし いったいしゆじようかいじようぶつどう しなん 深

きなり。

きよう きよう い しょぶつ ちえ じんじんむりよう うんぬん

経に云わく「諸仏の智慧は甚深無量なり」云々。この

きようもん しょぶつ じつぼうさんぜ いったい しょぶつ しんごんしゆう

経文に「諸仏」とは、十方三世の一切の諸仏、真言宗の

だいにちによらい じょうどしゅう あみだ ないししよしゅう しよきょう ぶつぼさつ

大日如来、浄土宗の阿弥陀、乃至諸宗・諸経の仏菩薩、

かこ みらい げんざい そうしよぶつ げんざい しゃかによらいとう しよぶつ と

過去・未来・現在の総諸仏、現在の釈迦如来等を諸仏と説き

あ つぎ ちえ ちえ

挙げて、次に「智慧」といえり。この智慧とはなにものぞ。

しよほうじつそう じゅうによかじよう ほつたい ほつたい

諸法実相・十如果成の法体なり。その法体とはまたなにも

なんみようほうれんげきよう しゃく い じつそう じんり

のぞ。南無妙法蓮華経これなり。釈に云わく「実相の深理、

ほんぬ みようほうれんげきよう

本有の妙法蓮華経」といえり。その諸法実相というも、

しゃか たほう にぶつ 習 しよほう たほう やく じつそう

釈迦・多宝の二仏とならうなり。諸法をば多宝に約し、実相

しゃか やく きようち にほう たほう きよう

をば釈迦に約す。これまた境智の二法なり。多宝は境なり、

しゃか ち きようちに しゃか ち きようちふ に ないししよう

釈迦は智なり。境智而二にして、しかも境智不二の内証な

り。これらは、ゆゆしき大事の法門なり。だいじ ほうもん

ぼんのうそくぼだい しょうじそくねはん

煩惱即菩提・生死即涅槃というも、これなり。まさしく男女なんによ

こうえ

なんみようほうれんげきよう

唱

ぼんのうそく

交会のとき、南無妙法蓮華經となうるところを煩惱即

ぼだい

しょうじそくねはん

しょうじ

とうたい

ふしようふめつ

覺

菩提・生死即涅槃というなり。生死の当体、不生不滅とさと

ほか

しょうじそくねはん

ふげんきよう

い

ぼんのう

るより外に、生死即涅槃はなきなり。普賢經に云わく「煩惱

だん

ごよく

はな

しよこん

きよ

しよざい

めつじよ

を断ぜず、五欲を離れずして、諸根を浄め、諸罪を滅除す

う

しかん

い

むみよう

じんろう

すなわ

ぼだい

ることを得」。止觀に云わく「無明・塵勞は、即ちこれ菩提、

しょうじ

すなわ

ねはん

じゆりようほん

い

みずか

生死は、即ち涅槃なり」。寿量品に云わく「つねに自ら

ねん

な

なに

しゆじよう

むじようどう

い

この念を作す。何をもつてか衆生をして、無上道に入り、

すみ ぶっしん じょうじゆ

速やかに仏身を成就することを得しめんと。方便品に云

せけん そう じょうじゆう とう こころ

わく「世間の相は常住なり」等はこの意なるべし。かく

ほったい まった よ

のごとく、法体というも全く余にはあらず、ただ

なんみようほうれんげきよう

南無妙法蓮華経のとなり。

尊 ほけきよう かこ 膝 下

かかるいみじくとうとき法華経を、過去にてひざのした

置 悔 嘖

におきたてまつり、あるいはあなずり、くちひそみ、ある

しん たてまつ ほけきよう ほうもん 習 いちにん

いは信じ奉らず、あるいは法華経の法門をなろうて一人

きようけ ほうみよう 続 ひと あくしん 寄

をも教化し法命をつぐ人を、悪心をもつてとによせかくに

寄 痴 笑 勤

よせおこづきわらい、あるいは「後生のつとめなれども、

まず今生かないがたければ、しばらくさしおけ」などと

むりよう 言 疎 ぼう こんじょう にちれんしゆじゆ

無量にいいうとめ、謗ぜしによつて、今生に日蓮種々の

だいなん 遭 しょきよう ちようじよう おんきよう 低 置

大難にあうなり。諸経の頂上たる御経をひきくおき

たてまつ ゆえ げんぜ ひと 下 もち

奉る故によりて、現世にまた人にさげられ用いられざる

ひゆほん ひと 親 付 ひと ところ 容

なり。譬喩品に「人にしたしみつくとも、人、心にいれて

ふびん

不便とおもうべからず」と説きたり。

きへん ほけきよう ぎようじや けつくだいなん 遭

しかるに、貴辺、法華経の行者となり、結句大難にもあ

にちれん 助 たも ほつしほん もん

い、日蓮をもたすけ給うこと、法師品の文に「化の四衆、

びく びくに うばそく うばい つか と たも

比丘・比丘尼・優婆塞・優婆夷を遣わして」と説き給う。

なか うばそく

きへん

誰

この中の「優婆塞」とは、貴辺のことにあらずんばたれを

指

ほう

き

しんじゆ

さか

かささん。すでに法を聞いて信受して逆らわざればなり。

ふしぎ

ふしぎ

にちれん

ほけきよう

ほつし

不思議や、不思議や。もししからば、日蓮、法華経の法師な

うたが

そくによらいし

すなわ

によらい

つか

ること疑いなきか。「則如来使（則ち如来の使いなり）」

似

ぎようによらいじ

によらい

じ

ぎよう

ぎよう

にもにたるらん、「行如来事（如来の事を行ず）」をも行

ずるになりなん。

たほうとうちゆう

にぶつびようぎ

とき

じようぎようぼさつ

ゆず

たま

多宝塔中にして二仏並坐の時、上行菩薩に譲り給いし

だいもく

ごじ

にちれん

弘

もう

すなわ

じようぎよう

題目の五字を、日蓮ほぼひろめ申すなり。これ即ち上行

ぼさつ

おんつか

きへん

にちれん

ほけきよう

ぎようじや

菩薩の御使いか。貴辺また日蓮にしたがいて法華経の行者

として諸人しよにんにかたり給うたも。これあに流通るつうにあらずや。

法華經の信心をとおし給え。火をきるに、やすみぬれば火ひ

をえず。強盛の大信力をいだして、「法華宗の四條金吾、四條

金吾」と、鎌倉中の上下万人、乃至日本国の一切衆生の口くち

にうたわれ給え。あしき名さえ流す。いわんやよき名をや。

いかにいわんや法華經ゆえの名をや。

女房にもこの由を云いふくめて、日月・両眼・そうの

つばさと調い給え。日月あらば、冥途あるべきや。両眼あ

らば、三仏の顔貌拝見疑いなし。そうのつばさあらば、

じやつこう

ほうせつ

と

しゆゆ

せつな

くわ

寂光の宝刹へ飛ばんこと須臾・刹那なるべし。

委しくはま

もう

そうろう

きようこうきんげん

たまた申すべく候。恐惶謹言。

ごがつふつか

五月二日

にちれん

日蓮

かおう

花押

しじようきんごどのごへんじ

四条金吾殿御返事